

利府町ワールドカップ対策協議会の質問に対する回答

1 交通アクセスについて

(1)岩切駅発着について

計画を作成する段階において、JR岩切駅周辺における国体終了後の遺跡発掘調査や土地区画整理事業等について、読めない部分があったため、基本計画では想定していません。

今後の使用の可否については、必要性等を精査したうえで、関係機関と協議、調整することとなります。

(2)利府駅からの徒歩客について

キリンカップ等での状況を踏まえ(40分歩かせることへの批判、周辺団地への影響等)、基本計画では、利府駅から歩かずに済むように、シャトルバスでの輸送を想定しています。

しかし、自らの意志で歩く方はいると思われ、その数がどれ位になるかは、現在のところ予想できません。

なお、こうした点を考慮し、利府駅からスタジアムまでの間は、周辺団地への影響に配慮し、沿道への警備員の配置、臨時トイレの設置等を検討しています。

(3)石積トンネルの使用について

輸送ルートについては、県のみで決定することはできず、今後、組織委員会(JAWOC)等と調整して決定します。

(4)スタジアム周辺の交通規制について

交通規制に関する手順としては、輸送ルートを決め、地元住民の方々の意向等を確認したうえで、県警に要請することとなります。

2 警備について

(1)野宿者への場所の提供について

サポータービレッジ等の交流スペースや大型ビジョン等で観戦する場の設置については、今後、検討してまいります。

(2)上記の警備方法について

一般論として、こうした施設を設置する場合、運営、警備等は、設置者の責任で行うこととなります。

(3)公園への寝泊まりについて

野営者がいるか、またいるとすれば、どの位の数になるかについては予想できませんが、少なくとも、菅谷台等の団地内の公園で野宿者等ができることのないよう、前日からの警備員による警戒等を検討しています。

(4)公園野宿への対処方法について

野宿対策については、他の開催地も対策を検討している問題なので、相互に情報交換するとともに、警察とも協議しながら効果的な対策を講じたいと考えています。

(5)一般の宿泊施設について

県観光課・観光連盟発行の最新の「宿泊施設ガイド」によれば、外国語(英語)対応スタッフのいる宿泊施設は仙台市及び近郊(利府町、塩竈市、多賀城市、松島町)に62件、収容人員17,456人(全部屋数7431)となっており、輸送基本計画における海外客の来場予想者数(約9,000人~14,000人)を上回っています。

また、試合スケジュールから考えて来場者の全てが県内に宿泊するとは考えられず、一方で外国語スタッフのいない宿泊施設への宿泊も可能であることから、全体としては十分な収容能力があると認識しております。